

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

ハウス胡瓜

胡瓜に太陽光が当たるように、整枝・摘葉・誘引して日照量確保に努めてください。

草勢が弱っている場合は摘芯を控え、摘葉で整枝してください。

着果量が多くなり尻太果・曲り果が増えてくるので早めに摘果を行い草勢維持と秀品率向上に努めてください。

夕方の気温が高くなってくるので二重ビニールの活用と外ビニールの閉め込む温度に注意してください。

循環扇や暖房機を活用し、湿度が高くならないように注意してください。

灌水は、1回の量が多いと地温が低下するので少量多回数灌水に努めてください。

気温の上昇に伴い、病害虫被害の発生が懸念されます。適期防除

に努めてください。特に黄化えそ病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマ、退緑黄化の媒介虫であるコナジラミの防除を徹底し、黄化えそ病の発病株は直ちに抜根してください。発生が見られないほ場につきましても、予防防除に努めるようお願いいたします。

スイートコーン

○ネキリ虫防除

ガードベイトA 3kg/10a

生育初期 株元散布

○発芽適温は25度〜30度です。平均気温が15度で、7〜10日で発芽を開始します。地温を十分確保してから播種を行ってください。

○除草剤散布 ゲザノンゴールド

ニラ

株養成期間不足、寒暖差により株自体がストレスを感じています。

発根剤、追肥等用いて草勢回復に努めてください。また、ハウス内湿度が高いため、こまめな換気を行い多湿条件下にならないよう注意してください。白斑葉枯病発生の助長にもなります。軟弱葉に対してはカルシウム剤（ファイトカル等）やケイ酸資材（メインステイカルシウムSi等）を利用し、

進行抑制を行ってください。

トマト類

寒い時期に入り肥効が鈍っています。通常の追肥の繋ぎとして液肥を使用してください。

着果負担等の影響により樹勢が弱っています。葉面散布等をこまめに行い、樹勢回復に努めてください。

急激な温度低下日や雨天の後は疫病が懸念されます。早朝1番にハウス内を全て巡回して早期発見、早期対応を心掛けてください。葉の混みや病害葉には灰色カビが発生しますので早めの摘葉を行ってください。併せてハウス内の空気循環を行ってください。

イチゴ

成り疲れ等の樹勢低下に気を付けてください。摘花を実施すると共に、発根剤・葉面散布を実施し樹勢回復に努めてください。また、うどんこ・ダニ・スリップスの防除をしてください。（※殺虫剤は散布量多めに散布してください。）

ぶどう

※トンネルビニール被覆
作型によって決めてください。

※芽傷処理

先端部の芽だけ発芽し、茎部の芽が発生しないことが多いです。樹液の流動が始まる直後に、先端1〜2芽を除いた芽に芽傷を入れてください。（発芽の3週間前）

※アミノ酸系液肥の塗布
メリット青を芽に塗布してください。

きんかん

収穫中は、裂果を抑制するため節水管理とします。リング抜けを促進する為に少量多灌水を行ってください。

収穫終了後は、樹勢回復のため少しずつ水を戻しましょう。（乾燥状態からの急激な灌水は、落葉を助長するので注意が必要）また、土壌分析を行い、春肥の施用も行ってください。

露地みかん

※整枝・剪定

色抜け（着色）を良くし、日焼け果の発生を少なくするため、剪定を行い長い春芽を確保しましょう。枝の切り返しはしないように、間引き剪定を主体に行うようにする。